

| 分野 | 重点目標 | 評価項目 | 達成・取り組み状況の評価 | 自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策 | 学校関係者評価及び意見 | 自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策 |
|------|--|--|---|---|---|---|
| 教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導と心の教育を充実させる。 学力の向上と自己教育力を育成する。 コミュニケーション能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 活力があり、いきいきと活動する生徒の育成が図られているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度も生徒に対して、教職員側から積極的なあいさつや声かけを行うことで、生徒自ら進んであいさつをすることができていた。また、地域と保護者で行った朝のあいさつ運動も効果的であった。「学校が楽しい」と答えた生徒が9割弱、「行事が盛り上がる」と答えた生徒がほぼ10割であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度も関係する項目について、肯定的な評価が全体の約8割を超えており、重点目標達成に向けた効果的な取組ができた。引き続き重点目標の達成に向け、学校や保護者、地域で協力し、より良い教育活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標の実現に向けて努力している様子が見受けられる。 今年度も、学校評議員会や授業参観、他の学校行事を通して、生徒の様子や教職員の指導している姿を見て、充実していると感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も学校だよりやホームページ等を通して、学校の様子を発信することで、保護者や地域の理解を深める。 心の教育を充実させるために道徳科で外部講師を招く等授業改善に努める。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 仲間を大切にし、隣人や自然を大切にす生徒の育成が図られているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動(学年評議員会や常任委員会等)を充実させることで、生徒自らより良い学校生活にしようとする姿が見受けられた。 道徳科の充実を図るために外部講師を用いて授業研究を実施した。 | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 進んで活動し、進んで学習する生徒の育成が図られているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な活動を教員が支援し、思考力・判断力・表現力を高める指導に努めた。 また、ICT機器を効果的に活用することで、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図った。 | | | |

| 分野 | 重点目標 | 評価項目 | 達成・取り組み状況の評価 | 自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策 | 学校関係者評価及び意見 | 自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策 |
|------|---|--|--|--|--|---|
| 組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> 学校組織や学校運営を円滑に進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌は連携し、機能しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が6割程度となり、昨年度よりも否定的な意見が増えたので、改善の必要がある。 各部会のリーダーが中心となって校務にあたる様子が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 「やりがいは感じているが、教職員同士が連携し、機能はしていない」という現状を踏まえ、次年度は、今まで以上に教職員一人一人の意見を聞きながら、情報を整理し、適正を見極めたいと考えている。そのうえで、偏りのない分掌で、機能的に校務が行われるように調整する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子から、教職員が教育活動に尽力していると感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標申告や業績評価の面接等を活用し、できる限り教職員が円滑に教育活動が行えるように校務分掌を調整する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 自身が担当している校務について、やりがいを感じる機会や達成感を得る機会はあるか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が8割を超え、昨年度よりも増えた。 | | | |

| | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|---|
| 学習指導・教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と自己教育力を育成する。また、生徒一人一人がいきいきと活動できるように環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題「学びあいを通して自ら学び、判断し、表現する生徒の育成」を意識し、授業を通して工夫・改善ができたか。 ・基礎学力の定着や個別指導の充実が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも肯定的評価が増え、9割を超えている。 ・研究授業等の様子を見ると、意欲をもって授業改善に取り組む教職員が多い。 ・教職員の肯定的な評価が8割に対して、保護者の肯定的な評価は6割5分程度と違いがあった。保護者の中には、2割程度「わからない」と回答した方もいた。 ・今年度も放課後に特別な学習時間(七林塾)を設定し、学習が不得意な生徒一人一人の疑問や相談について、丁寧に対応した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を進める中で、ICTをより効果的に活用し、基礎学力の定着や個別指導の充実、主体的・対話的で深い学びの充実を目指す。 ・保護者の理解を得るために学校だよりやホームページ、保護者会等を利用して、情報を積極的に発信する。 ・今年度の会議を通して、体育祭を春開催とし、朝の会から1校時までの時間についても十分確保する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習について、意欲的な教員が多いので、授業研究会や相互授業参観、外部講師を招いた授業参観を行うことで、より一層質の高い教育を目指す。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも、主体的・対話的で深い学びを促す授業を展開することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも1割5分程度肯定的意見が増えた。 ・生徒の授業内容に対する理解度は8割程度の評価であったものの、わかりやすい授業であるかという項目については、保護者の意見が7割を切っていた。 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器(chromebookや電子黒板)を活用して授業を行うことができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員や生徒、学校関係者の評価は高いものであった。 ・保護者の評価は7割後半だったものの、「わからない」と回答した保護者が1割5分程度いた。 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・日課時刻、時間割、学校行事は望ましい形であったか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事については、評価から充実したものであったことがわかる。 ・体育祭の実施時期について検討が必要である。 ・朝の会から1校時までの時間を調整する必要がある。 | | |
| | | | | | |
| 研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・より良い教育活動を行うために、校内研修を充実させる。また、校外の研修にもできる限り参加し、個々でスキルアップを目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内の研修は有効であったか。 ・校外の研修は有効であったか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な評価が7割程度であり、「わからない」と回答した教職員が2割程度いた。 ・中堅の教職員が中心となり、初若年層向けの研修を意欲的に行っていた。 ・8割強が肯定的な評価であった。校外の研修が充実していることがわかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を充実させるために、研修の企画・運営を見直す。 ・積極的に外部講師等を招く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導でも述べた通り、工夫した授業を行う教職員が増えた。努力がうかがえる。 ・指導力や授業力等を向上させたいと考えている教職員が多いので、意見交換する場を積極的に設け、現在の状況を改善したい。 |

| | | | | |
|------|--|--|---|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒が生き生きと明るく意欲的な学校生活を送れるようにする。 | <p>指導目標「生徒一人一人が生き生きと意欲的に活動する学校を目指す(気づく・考える・行動する)」を達成できたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 8割5分の教職員が肯定的な評価であり、昨年度よりも増えた。生徒指導主事が積極的に助言する姿が見受けられた。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導主事を中心として、本校の実態にあった指導方法を提案し、諸問題について組織的な対応が行われるように資料提供や研修を行う。学校全体の共通理解を図るうえでも効果的であると考えている。 人として大切なことを忘れない生徒を育てることが必要である。相手の話をよく聞き、その上で自分の考えをもつことが大事である。相手の立場に立って、声かけができるとすばらしい。 教職員のスキルアップのために、改めて日頃の情報交換や研修が必要であると感じた。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 積極的な生徒指導の充実が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が8割に達しなかった。 生徒指導主事が、教職員一人一人に対して、丁寧に説明する姿が見られた。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒や遅刻、欠席の多い生徒に対して、適切に対応できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 週1回の生活部会で管理職、生徒指導主事、各学年生徒指導担当職員、養護教諭、不登校生徒支援教室担当職員が相談しながら対応した。また、場合によっては関係機関と連携をとった。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解を基盤とした教育相談の充実やスクールカウンセラーとの連携が図られたか。また、教育相談体制が整備されていたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の教育相談に対する意識は、肯定的な評価が9割程度であるため高い。 生徒や保護者の「相談しやすい」といった回答が6割5分程度から7割程度であった。 スクールカウンセラーへの相談体制については、6割5分程度であった。昨年度と同程度であり、「わからない」と回答した保護者も2割程度いるので、改善が必要である。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> いじめを早期に発見し、早期対応が図られているか。 | <ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートや教育相談を活用し、早期発見・早期対応に努めた。生徒の評価は8割5分を超えていたものの、保護者の評価は6割5分程度であった。「わからない」と回答した保護者が2割程度いた。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 常に報告・連絡・相談を心がけ、共通理解のもと指導することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が7割を切っていた。改善が必要であると感じた。 | | |

| | | | | | | |
|------------|---|---|--|--|--|---|
| 保健・安全・給食指導 | <ul style="list-style-type: none"> 健康や安全な生活に対する意識の向上を図り、すすんでその管理に取り組む姿勢や態度を育てる。また、食事のマナーを守り、健全な食生活を実践できる力を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の健康観察により、生徒の心身の健康状態を把握することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 9割弱の教職員が、肯定的な評価をしている。生徒の内面的な部分を更に知る必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 現状の評価に満足せず、生徒の内面的な部分をケアできる方法を研修を通して学ぶ。 登下校の仕方等について、ロールプレイ等の工夫した指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> スケアード・ストレイトや給食試食会等の工夫をした活動が良いと感じた。 登下校の様子が若干気になる。 | <ul style="list-style-type: none"> 登下校の仕方について、ロールプレイ等の工夫した指導を行う。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 安全指導(登下校指導や避難訓練を含む)を的確に行ったか。 | <ul style="list-style-type: none"> 全体的に高い評価を得た。 | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 適切に給食指導を行うことができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 8割以上の教職員が、肯定的な評価であった。給食委員会の活動が積極的であった。 | | | |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校を目指す。また、地域や保護者から支援されるような学校をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携が密にとれた。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的な評価が7割強であり、保護者の肯定的な評価も7割強であった。お互いが同程度に感じていることがわかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ICTを積極的に活用し、情報を発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが積極的に地域ボランティア等に参加してほしい。 コロナ禍のときと比べて、どこが変わったか、どこを変えたかを発信すると良い。 | <ul style="list-style-type: none"> 自治会や町会と連携して、地域行事の紹介を積極的に行う。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域への情報提供を積極的に行っているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者の8割、学校関係者の10割が肯定的な評価であった。 | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者における学校を支援する体制が充実しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が7割弱程度であった。「わからない」といった回答が2割5分程度あり、周知されていないこともあるように感じた。 | | | |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全教職員による特別な教育支援を必要とする生徒の理解と指導・支援の協力体制をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒に対して、個に応じた指導を図ることができていた。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員、保護者ともに6割5分程度であった。 教職員が生徒に寄り添い、意欲的に関わっていた。しかしながら、知識が足りない場面も見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてケース会議を開き、個別の教育支援計画や個別の指導計画を充実させる。 校内研修を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員が生徒一人一人に寄り添い、対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> 研修を通して、正しい知識を身に付けたいうえで、個別の教育支援計画や個別の指導計画を見直す。 |
| 施設・設備 | <ul style="list-style-type: none"> 教育環境の整備と施設や設備、備品の管理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習や運動しやすい環境が整っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 全体的に高い評価を得た。しかしながら、もう少しインターネットの環境を良くしてほしいという要望が数件あった。 | <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会等と連携して対応する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が過ごしやすい環境である。 | <ul style="list-style-type: none"> 我々教職員ができることをしっかりと行い、できないところを教育委員会等と相談する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 施設や設備、備品の管理は適切に行えたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が9割を超えた。 | | | |